

2019年(令和元年)7月20日(土曜日)

タワー棟99.5 → 92メートルへ



JR三島駅南口東街区の再開発事業のイメージ図 (市提供)



JR三島駅南口東街区 再開発

JR三島駅南口東街区の再開発事業を巡り三島市、地権者らによる準備組合、ミサワホームが代表の「アスマチ三島プロジェクト共同企業体(JV)」の三者が、高層マンションが入る二十四階建て高さ九九・五層のタワー棟を七・五層下げ、二十二階建ての約九十二層にする方向で調整していることが十九日、市などへの取材で分かった。高さを下げるよう求める川勝平太知事や一部市民の声に配慮した。だが採算性を考慮し大幅な変更はしない。

(佐久間博康)

東街区の再開発事業は、現在駐車場の市有地と民有地計一・三畝に二〇二五年、商業施設や高層マンション、駐車場を整備する予定。総事業費二百二十億円で、市は六十一億円を負担する。

計画を巡っては、川勝知事が昨年四月の会見などで「富士山の玄関口となる駅前にマンションは似合わない」と発言。同八月十月に三島市が市民説明会で行ったアンケートでは、タワ

ー棟について賛成五十七人が上回ったものの、賛成者一人、反対四十一人と、賛成のうち十一人が高さへの配

採算性考慮 大幅変更せず

慮を求めた。このため豊岡武士市長はタワー棟の高さを下げる意向を示していた。

市三島駅周辺整備推進課の担当者は本紙の取材に「事業の採算がとれそうな範囲で知事や市民の声に配慮し、当初の計画より高さを下げる検討をしてきた。決定事項ではなく調整段階なので、来年五月ごろを目指す都市計画決定までにさらに変更される可能性もある」と説明。川勝知事に対しては「理解を得られるよう引き続き説明を尽くしたい」と述べた。

駐車場として利用されているJR三島駅南口東街区の土地。再開発事業では高層マンションや商業施設などが整備される計画＝三島市一番町で

